
彷徨-ほうこう-

りす君

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

彷徨—ほうこう—

【Nコード】

N7291B

【作者名】

りす君

【あらすじ】

過去に侵した過ちは、決して抹消する事が出来ない。過ちから逃げて、運命はそれを許す事は無い。この話は、過去の過ちに翻弄され、彷徨する少年と少女の物語。

経緯（前書き）

この世には、法で裁けない罪がある。その罪を侵した少年は、日々後悔の念に追われ、その事実から逃げていた。

経緯

…しい…

…苦しい…よ…

…助けて…たす…

(バツ！)

「ハアハア……くっ……またかよ……。」

俺はまた、“あの”夢を見た。

あの夢を見る度に、俺は何度も何度も苦しめさせれる……。

「くそ…早く忘れたい…早く…」

俺は、そう願うしか無かった……。

第1話…経緯

「おはよー、けんた虔太。」

「ああ、お早うながせ永瀬。」

いつもと同じ朝の光景。

いつもと変わらぬ友達。

俺が、この街に来てから約半年経った。

始めは、こっちでの暮らしに馴れるまでが大変だったけど、半年ぐらい経った今はやっと馴れてきたって感じた。

友達も数人出来た。今では、笑い合う仲だ。

しかし…俺がこっちに来るまでの話は、まだ誰にも話していない。
いや、話したくない。

「はい、じゃあ135ページを開いて下さい…」

普段通りの授業…。

平和なクラス…。

俺が、この高校に転入したのは、4月の半ばだった。

ここの高校は、私立と言っても最近設立したばかりらしく、歴史も浅い学校である。

校則は、遅刻や頭髪・持ち物検査など、大抵の私立高校と同じだった。

「じゃあ…四葉君。このページの三行目から読んで。」

「あ、はい。」

正直…この学校に転入して俺はようやく安堵出来た。もう、あんな所に居たくなかったから。

あの場所は…二度と行きたくない。

放課後、俺はいつも一緒に帰っている永瀬と数人で、教室の床を箒^{ほうき}で掃^はいていた。

「どうした虔太？お前、今日一日中さ顔色が悪かったぞ？」

「…そうか？心配してくれてありがとな。」

「いやいや、ただお前がいつもと違ったなと感じただけさ。」

「永瀬…すまん。」

永瀬^{ながせ} 和秋^{かずあき}、俺がこの学校に来て、最初に俺へ声を掛けてくれたのは奴だった。いつも明るく気さくな彼は、どうやらクラスのムードメーカー的な存在らしい。俺も、彼が相手なら話しやすい。

「さあて、全部掃いちゃったから片付けて終わりにすっか！」

「そうだな。」

「ゴミ捨ては、女子達がやってくれるらしいから、俺達は帰ろうぜ。」

「ああ。」

都会の高校と郊外の高校とでは、随分違う。

空気もよどんでなく、騒音も大して無く、うるさくない。

先生方もおおらかで、嫌いな先生など居ない。

この街での生活は、俺にとって有意義な時間になる…筈だった。

翌朝、学校のHRの時だった。担任の和田わだから来週、また新たに1人転入してくるらしい。

「先生、そいつは男ですか？女ですか？」

永瀬が、大きな声で質問した。担任は、ため息をついて少々呆れて言った。

「お前は高2にもなって、まだそんな事を聴くのか？」

「高2だからこそ、転入生は気になりますよ。」

「はぁ：女子だ。東京の都立羽栄学園高校からこの学校に来る。皆、仲良くしてやってな。」

（っ?!：は、羽栄学園高校だと?）

「マジかよ?女子だ、女子!」

永瀬は、喜んで教室中を走り回った。皆、その姿に大笑いしていた。

（くっ：何なんだよ：あれはもう終わった事んだ：俺は苦しまなくて良いんだ：なのに：）

この後、俺は気分が悪くなり学校を早退した。

予兆（前書き）

四葉はこの頃、妙な胸騒ぎを感じていた…。

その胸騒ぎの正体が解ったのは、感じ始めてから1週間経ったある瞬間だった…。

予兆

「…到頭、見つけたわ。」

ホント、マジで一生懸命探したんだから。

絶対、許さないから…

待っててね…四葉 虔太君。」

第2話…予兆

「…太？おい、どうした虔太？大丈夫かー！」

「っ！…ゴ、ゴメン永瀬。」

「ホントお前、この頃変だぜ。何か、あったか？」

「いや、別に何も…」

「それに昨日は、いきなり早退しちまうし…」

「昨日は…たまたま気分が悪くなっただけさ。」

「そうか？まあ…それならいいか。」

永瀬は、いつも俺を気に掛けてくれて、俺は心から感謝してる。

しかし、そんな優しい彼だからこそ、相談しづら為辛い。

このまま…いつまでもアレの所為で俺は…

「お早う。んじゃ、早速皆に新しくこのクラスの一人となる転入生を紹介しよう。…湯川^{ゆかわ}さん、入ってきなさい。」

俺の胸騒ぎは転入生がやって来る今日ですら、収まっていない。

（くっ…一体何なんだ、この嫌な胸騒ぎは…）
（ガラガラ）

教壇の横にある前ドアから、小柄な女子がゆっくりと入ってきた。少女の姿を見て、永瀬は立ち上がって馬鹿丸出しで大喜びしていた。

「スゲー可愛いじゃん！ほら、虔太も見てみな。」

俺は、永瀬に促されてゆっくりと顔を上げて教壇の所を見た。その女子を見た時だった…俺の身体と意識は数秒間だけフリーズした…。

「…い！…おいっ！聴こえるか虔太？！」

「っ！…………お、俺…どうしたんだ？」

「お前、正気に戻ったかあ…はあ…良かった！また、お前がおかしななってたんだよ。」

「それで…授業は？」

そう俺が尋ねると、永瀬は長い溜め息を吐いた。

「お前、まだ正氣に戻ってないみたいだな。…今日は短縮授業だって先週和田が言ってただろ？」

（短縮授業：成程。だからもう授業が終わって、教室にはほとんど人が居ないんだ。）

俺は、あと一つ永瀬に聴きたい事があった。

「俺が意識を飛ばしている間、何かあったか？」

すると、永瀬はまた長い溜め息を吐いた。

「お前な…意識を無くしてる間、何にも知らなかったのか？」

「ああ…どうやら。」

「ああ、“四葉君”ってホント酷いヒトね。」

「っ?!だ、誰だ?!」

俺と永瀬は、同時に声のする方に顔を向けた。

「あ…アンタは…」

「湯川さんっ!」

永瀬は、机の上に座ってこちらを見ていたあの少女を見て、飛び上がった。

「エヘッ、あなたは四葉君でしょ? あたし、湯川ゆかわ 凛音りんね。これから宜しくね。」

少女…湯川は、軽く自己紹介したと同時に手を出してきた。

「握手…しよっ？」

そう言った湯川の笑顔は…自然に出たモノでは無かった…。

湯川 凜音（前書き）

突如、四葉達の高校に転校してきた少女、湯川。
四葉は、そんな彼女を避けたかった…。

湯川 凜音

今、俺の前に立っている少女、湯川 凜音は俺が前にいた学校から転校してこのクラスに転入した。

実は、彼女の存在を…俺は前々から知っていた。そして彼女の方も…。

第3話…湯川 凜音

「あれ？握手しようよぉー。」

無垢な笑顔で手を差し出す彼女…それは虚像だ。

「どうした虔太？」

「名前、虔太君って言うんだぁ、良い名前だね！」

もちろん、彼女は前々から俺の名前を知っている。そして、俺の過去も…。

「済まない永瀬、先に帰るよ。」

「えっ?! ちょ、ちよっと待てよぉ!」

俺は、この場に長く居るのが苦しくなって鞆を持って急いで教室を出た。申し訳ないと思ったが、永瀬を振り切る為に全速力で走って家に帰った。

翌日、俺は母親に体調不良を訴えて学校を休んだ。体調不良は真っ赤な嘘だったが、母親は昔から心配症だったので信じてくれた。

時計の針は、午前9時半を差していた。突然、机に置いてあった携帯が振動した。

「メール…永瀬からか。」

携帯を開け、内容を確認した。

（大丈夫か？今日の授業、ちゃんとお前の分のノート取っとくから早く元気になれよ！）

永瀬の優しい心遣いが、とても嬉しく感じた。
内容は、まだ続いているようだった…。

（あ、一応報告しとくけどさ、朝の5分休憩中に湯川さんに“四葉君のメルアド知ってる？”って聞かれたから教えちゃまった、勝手にわりいな。）

（ポトリ…）

…俺は、その場で硬直した。

「う…嘘だろ…」

その時、また携帯が振動した。永瀬じゃない…俺の登録してないメルアドだ。

「ま…まさかな…」

俺は内容を確認し、フリーズした。

（ヤッホー！具合の方は大丈夫う？

さっき、永瀬君から四葉君のメルアドを勝手に聞き出しちゃってゴメンね。でも昨日、いきなり四葉君が帰っちゃって…四葉君たちと、もっと仲良くなりたかったからさ。それじゃあ、お大事にい。

P. S. あの事…私、絶対許さないから。

湯川 凜音

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7291b/>

彷徨-ほうこう-

2010年10月12日06時55分発行